

問1 日本海側の地域において、冬の降水（降雪）量が多くなるメカニズムを説明したものとして、最も適切なものはどれか。 (2023

年 新潟県公立入試 類似)

1. 冬に北西から吹く季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈にぶつかって上昇することで雪を降らせる。
2. 冬に南東から吹く季節風が、太平洋を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈を越えた後の日本海側で乾燥した空気を送る。
3. 赤道付近で発生した低気圧が日本海を北上し、暖かく湿った空気を山脈にぶつけることで大量の雪を降らせる。
4. 一年中吹く偏西風が、日本海流（黒潮）によって温められた水蒸気を直接運び込み、冬の山沿いに雨をもたらす。

問2 日本の地形において、飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の3つの山脈を総称した呼び名として最も適切なものを、次のうちから選びなさい。 (2020年 愛媛公立入試 類似)

1. 日本アルプス
2. 奥羽山脈
3. 関東山地
4. 筑紫山地

問3 ある都市の気候統計において、年平均気温が15.1℃、年降水量が1895.7mmであり、月別の降水量を確認すると、12月、1月、2月の数値が他の月と比較して突出して多いという特徴が見られました。このような気候がみられる日本の都市として、最も適切なものを選びなさい。 (2017年 和歌山公立入試 類似)

1. 北海道東部の太平洋側に位置し、夏に濃霧が発生しやすい釧路市
2. 千葉県側の太平洋側に位置し、黒潮の影響で冬も温暖な銚子市
3. 鳥取県の日本海側に位置し、冬の季節風の影響を強く受ける境港市
4. 鹿児島県の南端に位置し、夏の降水量が非常に多い枕崎市

問4 ある統計資料において、都市Aは1月の平均気温がマイナス0.6度と低く、冬の降水量が非常に多いという特徴があります。一方で都市Bは、1月の降水量が38.2mm、7月が144.1mmと全体的に降水量が少ない数値を示しています。これらのデータから推測される都市Aと都市Bの組み合わせとして、正しいものを選んでください。 (2017年 福岡県公立入試 類似)

1. 都市A：東北地方の日本海側の都市、都市B：瀬戸内海に面した都市
2. 都市A：瀬戸内海に面した都市、都市B：東北地方の日本海側の都市
3. 都市A：太平洋に面した温暖な都市、都市B：中央高地に位置する都市
4. 都市A：中央高地に位置する都市、都市B：太平洋に面した温暖な都市

問5 無電柱化を推進する自治体の計画において、病院の周辺や交通量の多い国道を「最優先で整備すべき地域」とし、学校の周辺などを「それに次いで整備する地域」と区分することがあります。このように地域特性に応じて優先順位をつける理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 長野公立入試 類似)

1. 災害発生時に人命救助の拠点となる施設や、物流の幹線となる道路の通行を最優先で確保する必要があるため。
2. 交通量の多い地域ほど電線を地下に埋める工事費用が安く済み、短期間で事業を完了させることができるため。
3. 学校周辺よりも病院や国道沿いの方が、無電柱化による景観改善が観光客の増加に直結しやすいと考えられているため。
4. 交通規制の影響を最小限にするため、もともと交通量が多く電柱の数も少ない地域から着手するのが効率的だから。

問6 日本の多くの都市が位置する三角州という地形について、その成り立ちや自然災害に対する特徴を説明したものとして正しいものはどれですか。 (2026年 茨城公立入試 類似)

1. 河川の運搬作用により河口に土砂が堆積してできた地形で、地盤が脆弱なため地震の際に揺れや液状化の影響を受けやすい
2. 山地から流れ出た土砂が扇状に広がってできた地形で、地盤が強固なため大規模な建築物の建設に適している
3. 遠浅の海を堤防で囲い、内部の水を抜き取ることで人工的に作られた地形で、常に排水ポンプによる管理が必要である
4. 河川の浸食作用によって形成された階段状の地形で、標高が高いため津波や洪水の被害を全く受けない

問7 日本近海の海流の動きを整理した資料において、九州の西側から日本海へ入り込み、日本列島の北西側に沿って北上する海流があります。この海流は太平洋側を流れる大規模な暖流である黒潮から分かれたものですが、その名称として正しいものを選びなさい。 (2018年 徳島公立入試 類似)

1. 対馬海流
2. リマン海流
3. 親潮（千島海流）
4. 黒潮（日本海流）

問8 自然災害が発生した際に、予測される被害の範囲や避難場所、避難経路を地図上に示したものを何と呼びますか。最も適切な名称を選びなさい。 (2022年 愛知公立入試 類似)

1. ハザードマップ
2. 人口ピラミッド
3. 等高線資料
4. 土地利用図

## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> 冬に北西から吹く季節風が、日本海を渡る際に水蒸気を蓄え、山脈にぶつかって上昇することで雪を降らせる。	日本の冬は、シベリア高気圧から吹き出す北西の季節風の影響を強く受けます。この季節風が比較的暖かい日本海の上を通過する際、大量の水蒸気を吸収します。水分を含んだ湿った空気が日本の背骨にあたる奥羽山脈や三国山脈などの高い山々にぶつかって上昇し、冷却されることで雪となって降ります。そのため、山脈の西側に位置する日本海側の地域では、冬の降水量が非常に多くなるという特徴があります。
問2	<b>答え 1</b> 日本アルプス	本州中央部の標高が高い地域を構成する飛騨・木曾・赤石の3つの山脈は、ヨーロッパのアルプス山脈にちなんで「日本アルプス」と名付けられました。これらは日本の地形の骨格をなす重要な山域です。選択肢にある奥羽山脈は東北地方、関東山地は関東地方、筑紫山地は九州地方に位置する山地です。
問3	<b>答え 3</b> 鳥取県の日本海側に位置し、冬の季節風の影響を強く受ける境港市	冬（12月～2月）の降水量が突出して多いのは、典型的な日本海側の気候の特徴です。太平洋側の銚子や枕崎は冬に乾燥して降水量が少なくなります。また、釧路は寒冷で年間降水量は少なめです。統計データにある「冬の降水量の多さ」から、日本海側に面した都市を特定することができます。
問4	<b>答え 1</b> 都市A：東北地方の日本海側の都市、都市B：瀬戸内海に面した都市	日本海側の気候は、冬に北西の季節風の影響で雪や雨が多くなるのが最大の特徴です。特に北部の都市では1月の平均気温が氷点下になることも珍しくありません。対して、1月・7月ともに降水量が少なく、年間を通して雨が少ないデータを示すのは瀬戸内の気候の特徴です。これにより、都市Aを日本海側、都市Bを瀬戸内と判断できます。
問5	<b>答え 1</b> 災害発生時に人命救助の拠点となる施設や、物流の幹線となる道路の通行を最優先で確保する必要があるため。	防災計画では、災害時の機能維持が特に求められる場所から優先的に対策が行われます。救急受け入れを行う病院や、支援物資を運ぶ大型車両が通る幹線道路が電柱倒壊で通行不能になると、被害が拡大する恐れがあるため、これらを結ぶルートが最優先の整備対象となります。
問6	<b>答え 1</b> 河川の運搬作用により河口に土砂が堆積してできた地形で、地盤が軟弱なため地震の際に揺れや液状化の影響を受けやすい	三角洲は河川が運んできた細かな土砂が、海などの静かな水域に到達して流速が落ちることで堆積し、形成されます。このようにしてできた土地は、水分を多く含んだ柔らかい層が厚いため地盤が弱く、地震時の揺れが増幅されたり液状化現象が発生したりしやすいという防災上の課題があります。また、海拔が低いいため、高潮や洪水による浸水リスクも高い地形です。
問7	<b>答え 1</b> 対馬海流	九州の南西側で黒潮（日本海流）から分かれ、対馬海峡を通過して日本海へと流れ込む暖流は対馬海流です。この海流は日本海沿岸を北上し、日本の気候に大きな影響を与えています。選択肢にあるリマン海流は日本海を南下する寒流であり、親潮は太平洋側を南下する寒流です。黒潮は分かれる前の太平洋側の本流を指します。
問8	<b>答え 1</b> ハザードマップ	洪水、土砂崩れ、津波などの自然災害が起きた際、どこにどのような危険が及ぶかを予測し、住民が安全に避難できるように作成された地図です。自治体などが配布しており、日常生活の中で自分たちの住む地域の動向を把握するために重要な役割を果たします。